
《500文字小説》 青いバラの条件

十司 紗奈

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《500文字小説》青いバラの条件

【Nコード】

N3308U

【作者名】

十司 紗奈

【あらすじ】

あてのない、夢見がちな事を言い出した彼に腹を立て、大げんかになるも、思いがけない方法で納得させられてしまう「私」の物語。

「何て言ったの？」

彼はソファの上で満面の笑みを浮かべた。

「エジプトに滞在する事にした。発掘の許可がおりたんだ。奇跡だよ」

「何言ってるの！来年には……って話は！？」

「覚えてるよ。君は、世紀の大発見をした考古学者の妻になるかも」「バカ言わないで！真夏に雪が降るくらい不可能よ！」

子供っぽい人だとは思っていた。でも、ここまで見境ないとは思わなかった。その日は平行線の口ゲンカになって一日が終わった。

彼は暫く顔を見せなかったし、私も癪なので連絡しなかった。が、ある夜、彼はク・ラ・ボックスを持ってふらっと訪れた。

「真夏の雪は不可能って言ったよね？」

彼はボックスを開けた。思わず目を見張る。中にあったのは小さな雪だるま。

「穂高まで行ってきた。バスで標高2600mまで行けるんだよ。そこにはまだ雪が残ってるさ」

私は呆れて言葉が出なかった。

「不可能には条件があるんだよ。それはね、諦めること」
「……」

「ブルーローズって英語で不可能って意味だろ？でも日本の企業が青いバラを作ったんだ。不可能は可能になるんだよ」

思わず吹き出してしまった。涙が出る程笑った後で、私は素直に言う事ができた。

「負けたわ……行つてらっしゃい」

（後書き）

暑いので、怪談話とは違う「涼」の話を書こうと思って書きました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3308u/>

《500文字小説》青いバラの条件

2011年10月8日19時20分発行